

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年9月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300114
法人名	医療法人蒼風会
事業所名	グループホーム花心家
所在地	鹿児島県南九州市川辺町下山田1726-1 (電話) 0993-57-2113
自己評価作成日	令和4年8月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年9月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造民家を改修したグループホームであり、自宅に帰って来たような雰囲気、新規入居者も馴染みやすい環境となっている。また、周囲には田畑や山などの自然が眺望でき、四季を感じながら暮らすことが出来る。住環境は、民家改修型のため玄関や居室、居間への出入りに段差があるが、生活リハビリとして利用している。母体が心療内科病院であり、医療連携体制加算に伴う看護師訪問や定期的な受診を通じて医療面への支援は連携が取りやすい関係性にあり、入院治療を含め早期対応が取れる体制である。職員は、入居に至るまでの人生と背景を理解し、アットホームなグループホームを目指し、入居者から学び楽しく過ごして頂けるよう工夫しながらチームケアに取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、南九州市役所支所から3km程離れた住宅地にあり、周辺は、自然が豊かな農村地域である。地域公民館が隣接しており、資源ごみ回収などや地域行事を通じて地域交流に取り組んでいる。平成18年に民家を改修した純和風の木造住宅であるが、各部屋に縁側があり庭石や灯籠が設置され、樹木や季節の花々が折々の四季を感じさせてくれる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、家族や知人、友人、地域の方などの面会が気兼ねなくでききるよう面会室を増設し好評を得ている。地域の方とは、運営推進会議を通じて情報交換もしており、事業所の取り組み状況や利用者の暮らしぶりなどを知ってもらえるよう取り組んでいる。

管理者は、随時職員と面談をおこない意見や要望が忌憚なく出せるよう雰囲気作りに努め職員が職務上の悩みや個人的な相談ごとの意見を出せる組織的なしくみがあり職員間の信頼関係を深められるよう協力体制を構築している。法人は、職員の勤務状況を把握し、働きやすい職場環境の整備や研修の実施、資格取得へのバックアップ体制もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	目に付きやすい場所に理念を貼り、いつでも確認できるようにし、口頭でも伝えることで実践に繋がるように努めている。	理念は、玄関に掲示され朝礼時に省みるよう取り組んでいるが、以前に比べて地域交流などが思うようにできていないこともあると感じている。日々、散歩などを通じて近所の方と顔の見える付き合いをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、地域の方や地域の業者より卵・調味料等を購入している。散歩の際には短時間ではあるが交流することがある。	コロナ感染症の感染拡大予防のため外出を自粛しながらもホーム周辺を散歩して地域の方と会話したり、農産物を頂戴したりしている。また、地域の棒踊りを見学したり行事に寄付をして地域に協力している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	講話などの依頼があれば、可能な限り参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所報告、事故や感染状況、身体拘束状況の有無を報告し、意見・助言・要望等をお伺いしている。又、その内容を職員間で話し合い、実践できるように努めている。	会議は、2ヶ月毎に書面会議にて開催され、会議メンバーには事業所の取り組み状況やヒヤリハット事例、インシデント、利用者の暮らしぶりなどの情報提供をおこない、議案を提示し意見を聴取、議事録に残し情報を共有している。また、身体拘束等適正化を図るための会議も同時開催している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の際に事業所の報告を行い、相談しやすい関係である。緊急時などの協力も近隣の方々より頂ける体制になっている。</p>	<p>管理者は、事業所の現状や利用者の状況をつぶさに伝え市職員から助言を頂戴するなどして行政と連携を図っている。会議、研修などの連絡もあり、相互に協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会を年2回開催し、具体的な内容の理解と、拘束をしないケアを心掛けている。やむを得ない場合には、ご家族の同意を得ている。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を備えており、会議は2ヶ月毎に運営推進会議を兼ねて実施している。勉強会は、ICT活用により法人全体で取り組んでいる。昼・夜センサーを活用される方がいるが、家族に説明し漫然と使用することがないように評価をおこない計画に位置づけ廃止に向けて話し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ニュース等で話題となった事をきっかけに自施設を振り返り、考える機会となっている。eラーニングシステムにて関係するプログラムを職員で視聴し、学習の機会としている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、活用されている方がいないが、資料を掲示し、いつでも目を通せるようにはしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明文を用いて説明を行っている。不安な点・疑問点等は都度、説明し対応するように努めている。改定の際には文書にてお知らせし、新たな重要事項説明文にて説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会時に、ご家族の要望等をお伺いした内容は、ミーティング等で共有し、可能な範囲で反映できるように努めている。LINEや電話での希望、意見も受け付けている。	家族には、3ヶ月毎に「花心家通信」を送り利用者の近況や事業所の取り組み状況を伝えている。職員は、電話や面会の時に直接、意見や要望を聞き取るようにしており、業務日誌や申し送りなどで情報を共有し、法人と連携して業務改善やサービスの質の向上に繋がるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話や部署会・アンケートなどを活用しながら、個々の意見を聞かせて貰い、反映するよう心掛けている。	管理者は、必要に応じて個人面談を実施し、意見・要望を聞き取り、母体法人へ報告・相談ができる体制がある。職員の質を担保するための研修体制があり、シフト調整し、外部研修の参加には法人のバックアップがあり職員の就労意欲向上を図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や要望が通りやすく、子育て中の方々にとっても働きやすい環境と思われる。年に1度の昇給があり、夜勤手当も見直され職員の思いを組んでいた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修には、eラーニングを活用して全職員がいつでも学べる環境となっている。法人外の研修については、回覧にて情報提供しており、希望に応じて受講できるようになっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流会等を通じて同業者との情報交換を図り、サービスの向上に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人・ご家族から聞き取った内容を基に個々に応じたケアに取り組み、混乱・不安感を和らげるよう信頼関係の構築の努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の状況や困っている事、不安なこと等、要望を伺いし、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>生活の中で、試行錯誤しながら、ケアの方法を確立するように努めている。治療上必要な場合、精神科デイケアの利用を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることは、見守りながら、ご自身で行っていただき、自信を持って頂けるように努めている。利用者の方に協力していただいた際、職員は感謝の気持ちを伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行いながら、面会ができるよう努めている。状況説明や予後予測など、個々に応じて支援できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策の為難しい状況が続いているが、近所の散歩を行っている。テレビ電話も対応している。新たに感染対策のとれる面会室を設置した。	家族や知人と手紙のやりとりをしている方や訪問理容にて交流し馴染みの関係を築いている。また、週3回の認知症デイケアは全員が外出し、地域の方々との交流の場であり利用者の楽しみになっている。法人は、感染症対応面会室を増設し家族以外の面会も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思疎通が図りやすい方・困難な方、必要に応じて、関係性を考慮し席の配置を検討している。レク活動等通じて、ゆっくり、楽しく過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、関係性が疎遠となりがちだが、退所先が母体病院の方には不定期ではあるが面会に行くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を表示できる方の希望には添えるよう努めている。意思表示が困難な方の場合にはこれまでの生活史やご家族からの情報を参考にしながら検討している。	本人の思いや意向を汲み取り、できること、やりたいことなど希望が反映できるよう検討している。意思表示が困難な方については、コミュニケーションに努め本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に伺いフェイスシートやケアプランに記録し、その記録を繰り返し目を通し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状や有する力の把握に努め、ミーティングなどで情報を共有している。職員間で意見の出しやすい雰囲気がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心になりカンファレンスを行い、課題に対してご家族や必要な関係者とも連携をとりながらケアプランに反映している。	管理者や介護計画作成者は、家族と面談の上で計画の目標やケアの方向性などについて説明している。モニタリングは、業務記録やミーティングなど職員全員で実施し、本人の残存機能、やりがいや生きがい、本人の役割を重視している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、重要な事は業務日誌に記入して全員が把握出来るようにしている。特記事項はインクの色を変える事で一目で分かるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の為、外出の機会が減っているが、ご本人の言葉に耳を傾け可能な限り対応出来るよう努めている。ご家族からのご意見、ご希望も取り入れている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場や消防署、地域の方の協力等を通じて安心安全な生活支援と有事の際の体制作りにも努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院の適時サポート、又、必要に応じて協力医療機関・専門医を受診出来るように支援している。	母体医療機関をかかりつけ医とされる方も多く、内服薬調整には慎重を期している。また、夜間の睡眠状態にも注視しており、病院の看護師と連携し体調管理を十分におこなっている。定期や他科受診は、スタッフが対応し家族などと情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算に伴う訪問看護師に報告・相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、可能な限り毎日面会に行き、状況を伺い、情報交換・相談し、試験外泊等を取り入れ、早期退院ができるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応は、医療支援が重視されるため、現状では、母体病との連携により対応している旨を入所契約時にお伝えして、理解を頂くようにしている。	入居時、重要事項説明書にて重度化や終末期の対応について説明をおこない同意をいただいている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、事業所で対応し得る最大のケアについて話し合うとともに納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時などに備え、基礎的な知識と対応を学ぶ機会をつくり全職員が実践できるように体験を積むように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災想定・地震想定の実施している。実際に避難場所も設定し地域の方の避難誘導確認も行っている。また暴風雨・降水量が多い事が予想される場合、早めの避難を実施した。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が自尊心を傷つけないよう声かけや対応に心掛けているが不十分な時がある。これからも言葉遣い、内容に気を付けていきたい。	個人情報については、年2回eランニングを活用して職員研修を実施しているが、研修は不足していると感じているため、日々のケアについては、プライバシー保護に配慮したケアに努められるよう言葉使いには特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている。言語での表現が困難な方でも、表情の変化で表す事が出来ないか働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に偏りすぎないように話し合っている、なるべく利用者のペースで希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣の時に服を選んで頂いたり洗面所で鏡を見て頂く。食べこぼし等に気付いた時にはすぐに更衣するように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の彩りや形態など個人に合わせて工夫している。職員が付き添える時、野菜の皮むきや切るなど行っている。台拭き・お盆拭きなど手伝っていただいている。	本人の食事形態や嗜好を勘案しながら、食への関心が薄らぐことがないように栄養バランスや盛り付けなどに工夫を凝らしている。また、食事の準備を職員と一緒にこない役割が果たせるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日の献立を参照し、メニューが偏らないように心掛けている。状況に応じて栄養補助食品を用いている。水分摂取に関しては、本人の嗜好に合わせてこまめに促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯ブラシ・舌ブラシ・口腔ケアウエットなどを使用し、起床時・毎食後・就寝前に個人に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人が希望するタイミングや食事の前等で案内している。言葉で表示出来ない方でも、排泄のサインを見逃さないように努めている。	ポータブルトイレを併用される方がおられ、排泄のリズムを把握しながらおむつへの排泄や使用量が減らせるよう支援している。トイレは、引き戸、カーテン（防災）にて使い勝手がよい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食物繊維等を意識して薬だけに頼るのではなく日頃より注視している。排便困難時には頓服の下剤を服用し、便秘の予防と対策に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴予定は決めてあり、午前中が多いが、希望する方は可能な限り入浴出来るようにしている。	入浴は、認知症デイケアに外出する以外の日を実施しているが、本人の希望や必要性に応じて入浴ができるよう支援している。ゆったりとした気分で入浴できるよう工夫や配慮があり、入浴剤の活用もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を促し、散歩や廊下を歩く等身体を動かすようにしている。午睡は15～30分程度としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時には、歩行のふらつきや日中の眠気等の症状がでやすいため状態の変化に注意している。薬の説明書に目を通し、作用・副作用等の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事計画をし、気分転換を図れるように働きかけている。役割として、日常出来ることを一緒にしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策のため、以前より機会は減少したが、近隣の散歩等で外に出る機会作りを心掛けている。デイケアも利用している。	本人の希望や思いに寄り添い、体調や気候に配慮し川沿いの散歩が日課になっている。感染対策を徹底し週3回の外出は、利用者の楽しみや日常的な外出になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に事業所預かりになっているが、希望があれば必要に応じてお渡しする。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は希望があれば、職員がダイヤルして話して頂いている。手紙が届いた際はすぐにご本人へお渡ししている。本人が手紙を書いた際は、早めに職員が投函する。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家を改修した建物のため家庭的な雰囲気となっている。季節ごとに飾り付けをしたり、音楽を流すなどし、その日その場に合わせた工夫している</p>	<p>共有スペースには、利用者の作品（ぬり絵など）が掲示され、季節の生花が飾られ四季が感じられるよう装飾がされている。民家を改修しているため、木の温かみのある和風の生活空間であり、段差解消や手すりを配置して住みやすいよう環境を整備している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物の構造上、共有空間の居間では独りになることは困難である。思い思いの過ごし方が出来るように自室を活用し配慮するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ダンスやテレビ・写真など持って来て頂き、心地よい空間で安心して過ごせるように支援している。</p>	<p>居室は、掃き出しで縁側があり襖や障子であり家庭的な雰囲気がある。畳部屋やフローリング仕様で利用者の身体機能や必要性に応じて居室を選定している。使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全で自立した生活ができるように手すりを設置している。また、居室の入り口に表札を付けて自室の場所が確認できるようにしている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない